



取扱説明書

RZ-50

RZ50

5FC-28199-J2

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
 注意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「仮保証書」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間
- 正式保証書の発行に関する説明

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために.....	1-1	日常点検箇所／点検内容	4-1	ブレーキ液の補給	6-12
あなた自身のために	1-1			ドライブチェーン	6-13
歩行者と他の車のために	1-4	運転操作	5-1	ドライブチェーンの給油	6-14
環境・住民の方との調和のために ..	1-5	始動と暖機運転	5-1	バックミラー	6-14
		(エンジンが冷えている時)	5-1	車体各部の給油脂状態の点検	6-15
各部の名称.....	2-1	エンジン始動	5-1	アンダーブラケットの	
左側面	2-1	(エンジンが暖まっているとき) ...	5-1	取り付け状態の点検	
右側面	2-2	ギヤチェンジのしかた	5-2	(ステアリングシステム)	6-15
運転装置と計器類	2-3	ブレーキ	5-2	バッテリー	6-15
		ならし運転	5-2	ヒューズの交換	6-17
		駐車	5-3	灯火装置および方向指示灯の	
				点検	6-18
				運行において異常が認められた	
				箇所の点検	6-18
各部の取り扱いと操作.....	3-1	点検整備	6-1	お車の手入れ	7-1
キーの取り扱い	3-1	点検整備の実施	6-1	洗車	7-1
メインスイッチ	3-1	サービスツール	6-2	保管のしかた	7-2
警告灯と表示灯	3-2	カバーの取り外し、取り付け	6-2	アフターケア用品について	7-2
スピードメーターユニット	3-3	エンジンオイル	6-3		
タコメーター	3-4	ミッションオイルの補給	6-3		
ハンドルスイッチ	3-4	エンジンのかかり具合、			
フューエルタンクキャップ	3-5	異音の点検	6-4		
燃料	3-6	低速、加速の状態の点検	6-4		
エンジンオイルの補給	3-6	冷却水	6-5		
フューエルコック	3-7	エアクリーナーエレメント	6-6		
チョークノブ “					

JAU27280

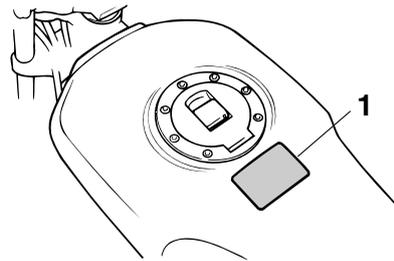
JAU38650

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身のために 安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは S または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合っ、て、圧迫感のないものが最適です。



- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は保護性の高い服で、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボンを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。ズボンのすそや袖口の広い服は運

転操作のじゃまになり、思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

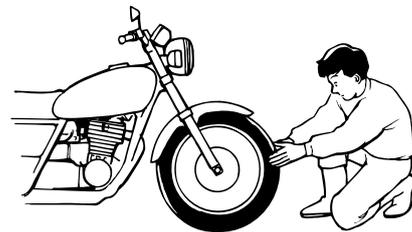
JWA11590

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず実施してください。

事故や故障を防ぐため、法令で定められた1日1回ご使用前に行う日常点検と、法令で定められた6か月、12か月ごとに行う定期点検は必ず実施してください。



車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音が生じたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する

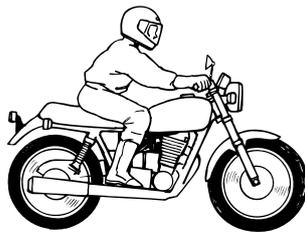
荷物を積むと、積まないときにくらべて操縦安定性が変わります。

荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。



両手はハンドル、両足はフットレスト

運転するときには、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。



乗車定員は1名

運転者以外に人を乗せることは道路交通法によって禁じられています。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。



誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせく

安全運転のために

ださい。

JCA15220

▲注意

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

自賠責保険に必ず加入

自賠責保険（共済）に加入することは法令で定められています。万一の事態に備えて必ず加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。



JAU27501

歩行者と他の車のために 他人への思いやり

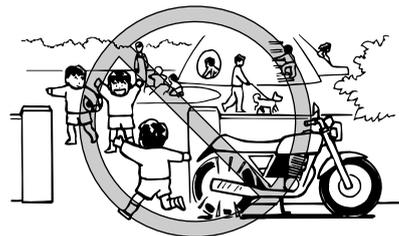
- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。



JWA12240

▲警告

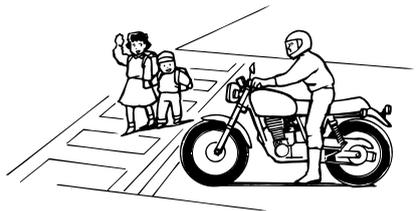
- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないで

ください。

JAU27580

環境・住民の方との調和のために 住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。

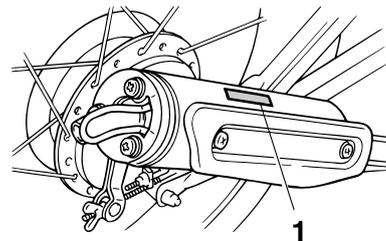


特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



1. “YAMAHA” マーク

安全運転のために

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの
廃棄処理をするときは、環境保護のためお買
い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

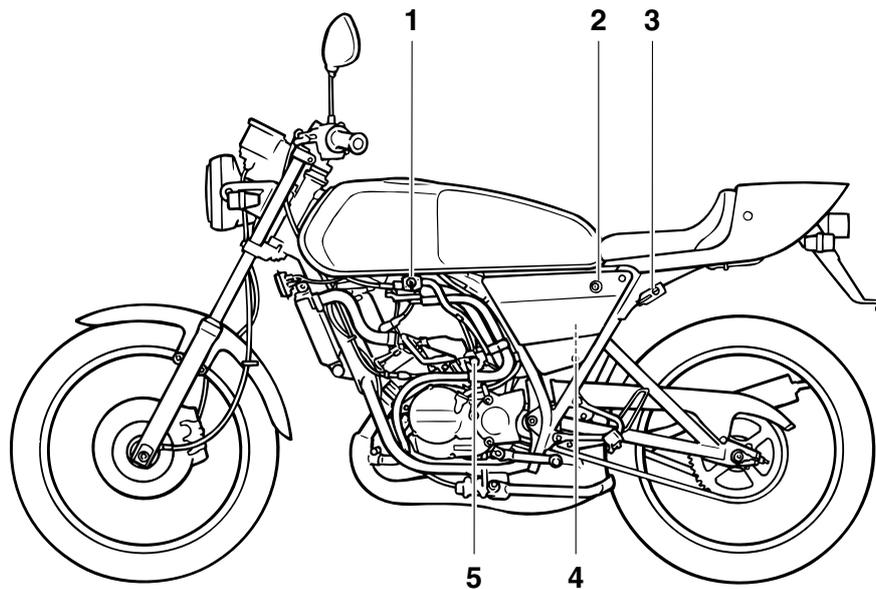
1

各部の名称

JAU10410

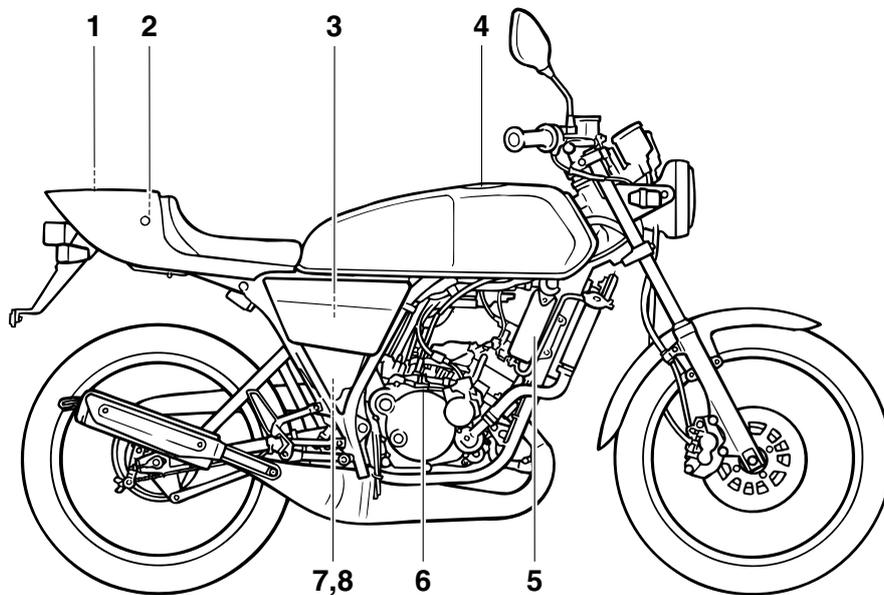
左側面

2



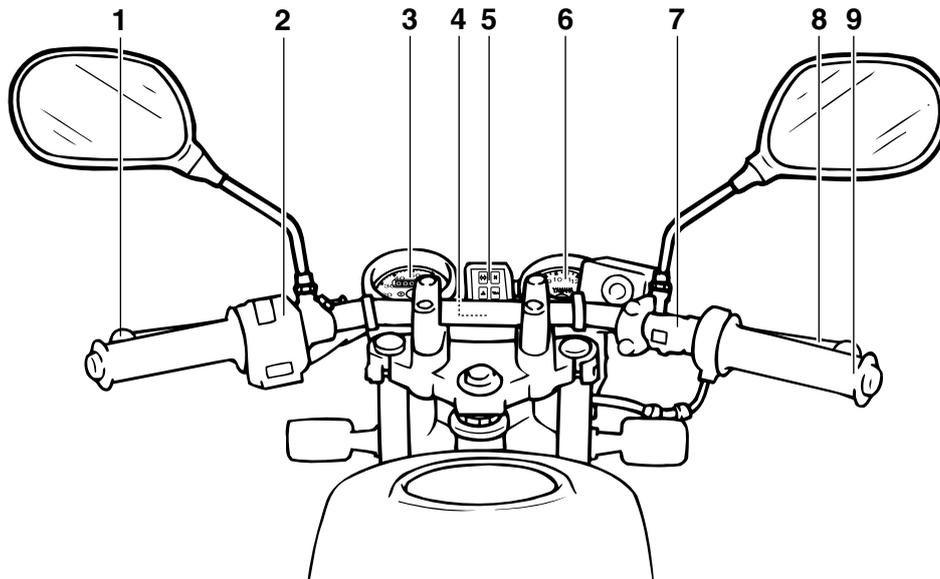
1. フューエルコック (P3-7)
2. シートロック (P3-8)
3. ヘルメットホルダー (P3-8)
4. エアクリナーエレメント (P 6-6)
5. チョークノブ (P3-7)

右側面



1. 書類入れ (P3-9)
2. サービスツール (P6-2)
3. オイルタンクキャップ (P3-6)
4. フューエルタンクキャップ (P3-5)
5. リカバリータンク (P 6-5)
6. ミッションオイル注入口 (P6-3)
7. バッテリー (P6-15)
8. ヒューズ (P6-17)

運転装置と計器類



1. クラッチレバー (P6-8)
2. ハンドルスイッチ (左) (P3-4)
3. スピードメーター (P3-3)
4. メインスイッチ / ハンドルロック (P3-1)
5. 表示灯 (P3-2)
6. タコメーター (P3-4)
7. ハンドルスイッチ (右) (P3-4)
8. ブレーキレバー (P6-9)
9. スロットルグリップ

JAU31080

キーの取り扱い

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、十分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- 1本のキーを紛失または破損したときは、販売店またはキーショップなどで新しい予備キーを作っておいてください。
- キーを2本とも紛失または破損したときは、販売店にご相談ください。



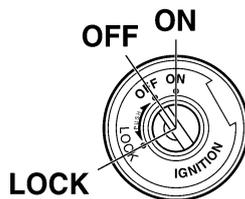
JCA12500

注意

金属製等のキーホルダーをつけると、車体を傷つけるおそれがあります。

JAU10460

メインスイッチ



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11620

警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気システムの作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11970

注意

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。
- エンジンをかけないでメインスイッチを

ONのままにしたり、エンジン始動後アイドリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。注意してください。

JAU10640

ON

全ての電気回路に電源が供給され、エンジンを始動させることができます。キーを抜くことはできません。

要点

エンジンが始動するとヘッドライト、テールランプ、メーター灯が自動的に点灯します。

JAU10660

OFF

全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

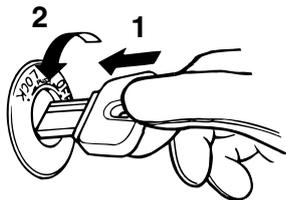
JAU10690

LOCK

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

各部の取り扱いと操作

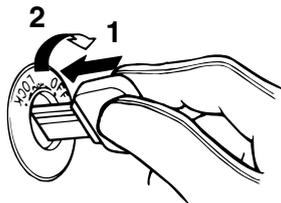
ハンドルロックのしかた



1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左または右にいっぱいに切り切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

ハンドルロックの解除のしかた



1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

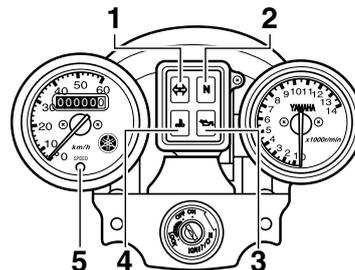
JWA11450

警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停止中に操作してください。

JAU11003

警告灯と表示灯



1. 方向指示器表示灯 “ $\leftarrow \rightarrow$ ”
2. ニュートラルランプ “N”
3. エンジンオイル量警告灯 “ 油 ”
4. 水温警告灯 “ 水 ”
5. 速度警告灯 “SPEED”

JAU11020

方向指示器表示灯 “ $\leftarrow \rightarrow$ ”
方向指示器に合わせて点滅します。

JAU11060

ニュートラルランプ “N”
ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU38660

エンジンオイル量警告灯 “ 油 ”
エンジンオイル量が少なくなると点灯します。
警告灯の電気回路は、以下の手順に従って、

点検することができます。

1. メインスイッチを ON にします。
2. スタータースイッチを押します。スタータースイッチを押している間に、警告灯が点灯しないときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

要 点

エンジンオイル量が充分であっても、坂道を走行しているときや急な加減速の間は、警告灯が点滅することがありますが、これは異常ではありません。

JCA11840

注意

走行する前に、エンジンオイル量が充分であることを確認してください。

JAU38670

水温警告灯 “”

エンジン冷却水が規定温度以上になった時、警告灯が点灯するか、点滅します。このときは、エンジンを止めて冷やしてください。

JCA11850

注意

エンジンがオーバーヒートしたときは、走行しないでください。

要 点

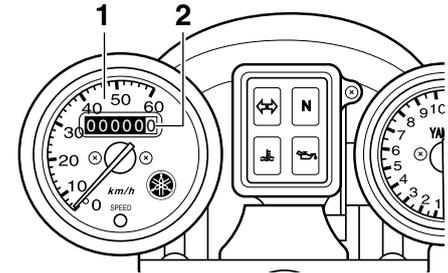
メインスイッチを ON にし、スタータースイッチを押している間は点灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。

JAU38070

速度警告灯 “SPEED”

車の速度が 30km/h を超えると点滅し、運転者に注意をうながします。

スピードメーターユニット



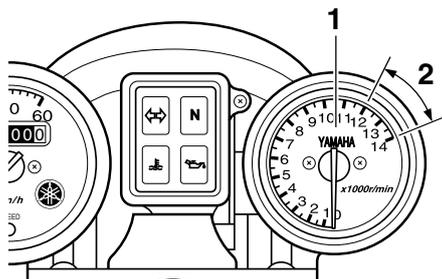
1. スピードメーター
2. オドメーター

スピードメーターユニットにはスピードメーターとオドメーターが装備されています。スピードメーターは車の速度を示します。オドメーターは走行した総距離を示します。

各部の取り扱いと操作

JAU11880

タコメーター



1. タコメーター
2. レッドゾーン

毎分のエンジン回転数を示します。

JCA11860

注意

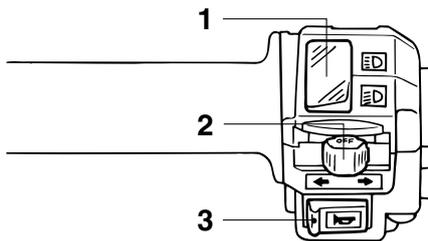
タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。

レッドゾーン: 12000r/min 以上

JAU12344

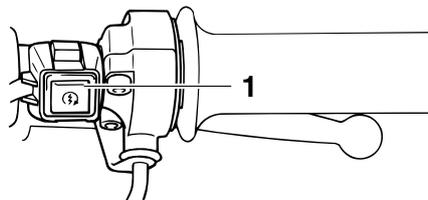
ハンドルスイッチ

左



1. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “ \equiv 〇/ \equiv 〇”
2. 方向指示器スイッチ “ \leftarrow / \rightarrow ”
3. ホーンスイッチ “ ㊦ ”

右



1. スタータースイッチ “ ㊦ ”

JAU12400

ヘッドライト上下切り替えスイッチ

“ \equiv 〇/ \equiv 〇”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

\equiv 〇(上向き)：遠くを照らします。

\equiv 〇(下向き)：近くを照らします。

要点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き “ \equiv 〇” にしてください。

JAU12460

方向指示器スイッチ “ \leftarrow / \rightarrow ”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

\rightarrow : 右側の方向指示灯が点滅します。

\leftarrow : 左側の方向指示灯が点滅します。

JWA11640

警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11980

注意

電球を交換するときは、正規のワット数のもの

のを使用してください。これ以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12500

ホーンスイッチ “”

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU12710

スタータースイッチ “”

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

JCA11881

⚠ 注 意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

フューエルタンクキャップ

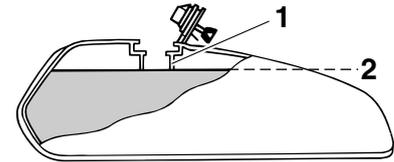
JAU13070

JWA12170

⚠ 警 告

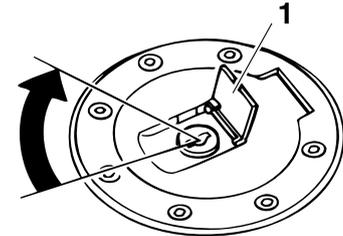
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- 給油限度を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー

フューエルタンクキャップロックカバーを開け、キーをロックに差込み、時計方向に1/4回します。ロックが解除され、フューエルタンクキャップは開きます。

各部の取り扱いと操作

フューエルタンクキャップの閉めかた

1. キーをロックに差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に、元の位置へ回し、キーを外し、ロックカバーを閉めます。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを閉めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないで、キーを抜き取るとはできません。

3

燃料

指定燃料

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 10.0 L
予備容量：
約 1.7 L

JAU31460

JAU28280

⚠ 注 意

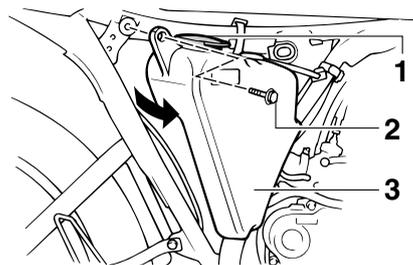
- 必ず指定燃料を使用してください。指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

JCA12510

JAU38680

エンジンオイルの補給

1. カバーBを外します。(6-2 ページ参照)
2. ボルトを外し、オイルタンクを手前に出します。
3. オイルタンクキャップを外し、エンジンオイルを補給します。



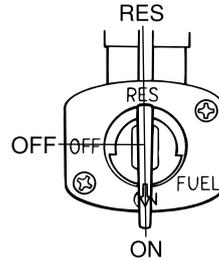
1. オイルタンクキャップ
2. ボルト
3. エンジンオイルタンク

オイルタンク容量：
1.2 L
推奨オイル：
ヤマハオートループスーパーオイルもしくは JASO2 サイクルエンジンオイル規格 FC グレード

▲注意

- 走行中にエンジンオイル量警告灯が点灯したら、早めにエンジンオイルを補給してください。
- エンジンオイルの補給時は、必ずエンジンを止めて、火気を近づけないでください。
- オイルの補給は、オイルタンクの口元からあふれさせないよう慎重に行ってください。
- オイルが不足したまま走行すると、エンジン故障の原因となりますので、必ずエンジンオイル量を点検してください。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混入させたり、低品質オイルを使用しないでください。
- オイルタンクキャップは確実に取り付けてください。走行中にオイルがにじみ出ることがあります。

フューエルコック



ON

始動および走行時のレバー位置です。

RES

予備燃料（予備容量約 1.7 L）を使用するときのレバー位置です。

ON で走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーを ON に戻してください。

OFF

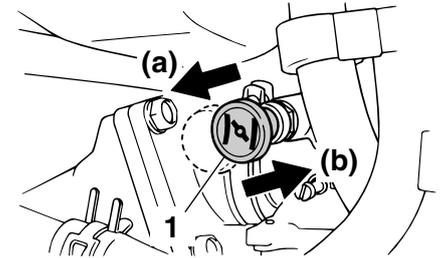
駐車時のレバー位置です。

ガソリンは流れません。

要 点

長期間使用しないときは、レバーを必ず OFF の位置にしてください。

チョークノブ “”



1. チョークノブ “”

エンジンが冷えているときは、チョークを使用するとエンジン始動が容易になります。

ノブを (a) 方向に移動させ、チョークをオンにします。

ノブを (b) 方向に移動させ、チョークをオフにします。

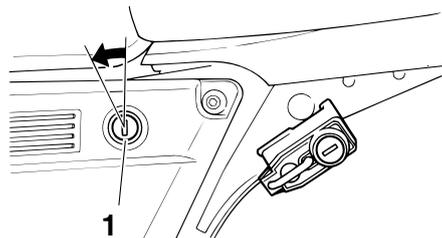
各部の取り扱いと操作

JAU38690

シート

シートの取り外しかた

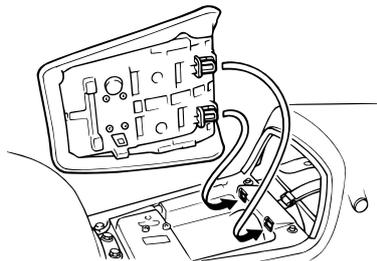
キーでシートロックを解除し、シートを外します。



1. 解除

シートの取り付けかた

シート後方の突起を図のようにホルダーに差し込み、シートを上から押さえてロックします。



JCA12780

⚠ 注意

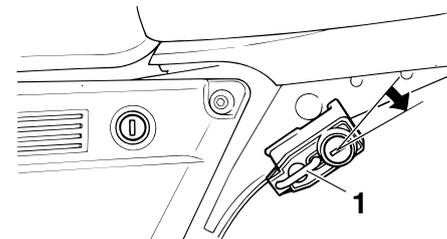
キーをシートの下に置いたまま閉じると、ロックされてキーが取り出せなくなります。注意してください。

要 点

走行前に、必ず、シートが確実にロックされているか確認してください。

JAU14281

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー

キーでロックを解除し、ヘルメットのおごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11650

⚠ 警告

ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

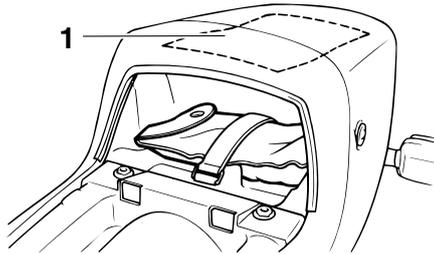
要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

書類入れ

JAU38700

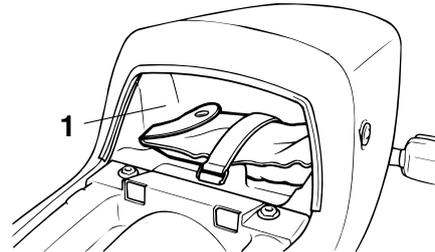
小物入れの中に書類入れがあります。
メンテナンスノート、自賠責保険証はビニール袋に入れ、ここに保管してください。



1. 書類入れ

小物入れ

JAU38710



1. 小物入れ

シートを外すと小物入れがあります。
(3-8 ページ参照)

▲ 注意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- 洗車をすると中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。
- 貴重品やこわれやすい物はいれしないでください。

- 小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物はいれしないでください。
- 車から離れるときは必ずシートをロックしてください。
- キーを小物入れ内に入れたままシートを閉じると、ロックされ開けられなくなります。注意してください。

各部の取り扱いと操作

JAU15301

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては以下を参照してください。)

JWA11530



警告

サイドスタンドをおろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない(上がった状態にならない)場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、以下のように定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

JAU38830

イグニッションサーキットカットオフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム(サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む)には次の機能があります。

- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
 - ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
 - ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。
- イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11540



警告

点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

要 点

この点検は、エンジンを充分暖気してから行ってください。

エンジンを停止したときに：
1. サイドスタンドを下ろします。
2. メインスイッチをONにします。
3. ギヤをニュートラルに入れます。
4. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが始動した状態のまま：
5. サイドスタンドを上げます。
6. クラッチレバーを握ります。
7. ギヤを入れます。
8. サイドスタンドを下ろします。
エンジンは停止しましたか？

はい いいえ

サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

エンジンが停止した後：
9. サイドスタンドを上げます。
10. クラッチレバーを握ります。
11. スタータースイッチを押します。
エンジンは始動しましたか？

はい いいえ

クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。走行可能です。

JAU15591

JAU38720

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で、1日1回の日常点検を行うことが義務づけられています。

必ず実施してください。

JWA12030

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適切であること。
タイヤ	<ul style="list-style-type: none"> ● タイヤの空気圧が適切であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	<ul style="list-style-type: none"> ● 冷却水の量が適切であること。(※) ● エンジンオイルの量が適切であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適切であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	<ul style="list-style-type: none"> ● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。

点検箇所	点検内容
運行において異常が認められた箇所	<ul style="list-style-type: none"> ● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11731

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。

- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
 - 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。
-

始動と暖機運転（エンジンが冷えている時）

JAU38730

JWA11560

⚠ 警告

- エンジンを始動する前に、3-10 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検します。
- サイドスタンドをおろした状態で走行しないでください。

1. フューエルコックを ON（または RES）にします。
2. メインスイッチを ON にします。
3. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

4. チョークをオンにし、スロットルを完全に閉めます。(3-7 ページ参照)
5. スタータースイッチを押して、エンジンを始動します。

要 点

スタータースイッチで 5 秒以内にエンジン

が始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

6. エンジンが始動したら、20 ～ 30 秒後にチョークを途中まで戻します。

JCA12590

⚠ 注意

エンジンを長持ちさせるため、発進の前には常にエンジンを暖機してください。エンジンが冷えている間の無用な空ふかしは避けてください。

7. エンジンが充分暖まり、エンジンの回転が安定したら、チョークをオフにします。

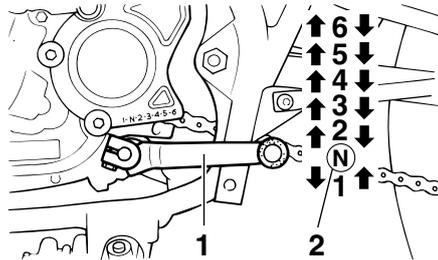
JAU16640

エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

エンジンが暖まっているときは、チョークを必要としないことを除いて、エンジンが冷えている時のエンジン始動と同じ手順で行います。

ギヤチェンジのしかた

JAU27511



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車はリターン式の 6 段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

JCA12030

注意

- シフトペダルは、足ごたえがあるまで確実に操作してください。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

ブレーキ

JAU33170

1. スロットルを完全に閉じます。
2. 前輪ブレーキと後輪ブレーキを同時に、徐々にかけます。

JWA11570

警告

- 急なブレーキは避けてください（特にどちらか一方に傾いている時）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。坂道では減速してください。

ならし運転

JAU31470

ならし運転のしかた

JAU27660

初回 1 か月目（または 1000km 走行まで）の点検までは、ならし運転をしてください。ならし運転中はエンジン回転数を 7000r/min 以下で走行してください。また、不要なからふかしや急加速、急減速はしないでください。ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

運転操作

JAU17180

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜き、フューエルコックをOFF にします。

JWA11580

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JCA11930

注意

草や可燃物等の火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。

JAU29832

点検整備の実施

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、1日1回実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、6か月点検と12か月点検の2種類があります。

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12051



警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせ

た範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。

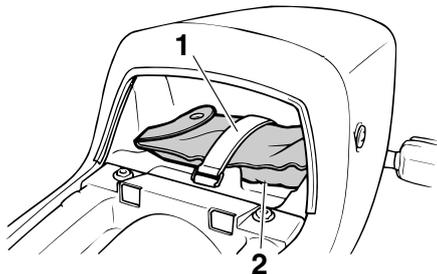
- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール

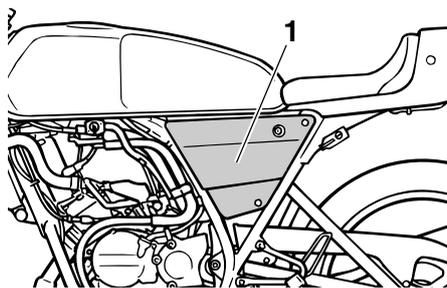


1. バンド
2. サービスツール

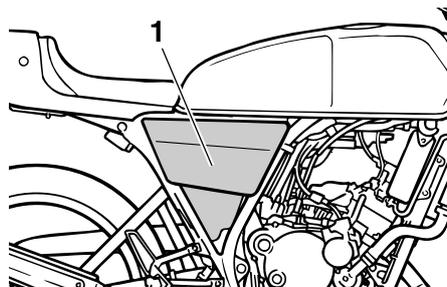
サービスツールは小物入れの中にあります。
(3-9 ページ参照)

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要
があります。カバーを取り外すときや、取り
付けるときは、この項目を参照してくださ
い。



1. カバー A

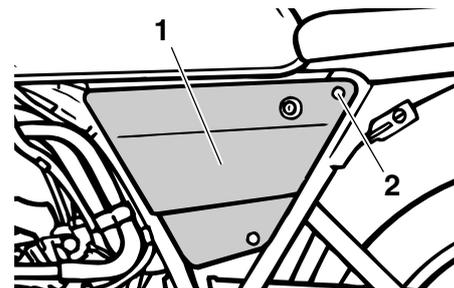


1. カバー B

カバー A

カバーの取り外しかた

ボルトを外し、カバーを取り外します。



1. カバー A
2. ボルト

カバーの取り付けかた

カバーを取り付け、ボルトを締め付けます。

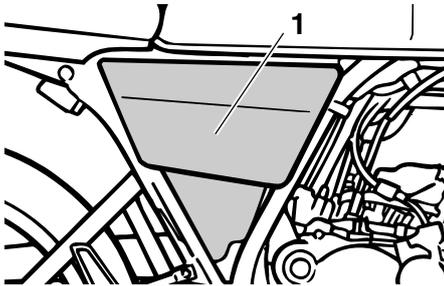
カバー B

カバーの取り外しかた

カバーを手前に引いて取り外します。

JAU30130

JAU38760



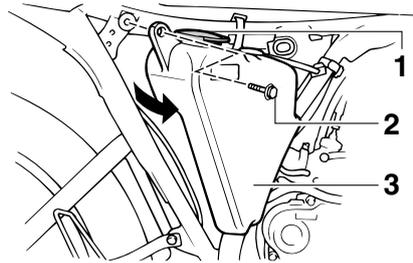
1. カバー B

カバーの取り付けかた

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

エンジンオイル エンジンオイル量の点検

エンジンオイル量警告灯を確認するか、オイルタンクキャップを外し、オイルタンク内にオイルが充分に入っているかを点検します。



1. オイルタンクキャップ
2. ボルト
3. エンジンオイルタンク

エンジンオイルが不足しているときは補給してください。

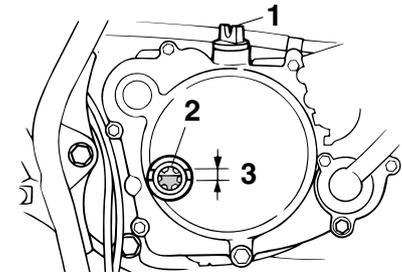
ミッションオイルの補給

1. 平坦な場所でサイドスタンドを立て、エンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンを十分に暖機してあれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めて2～3分後、車を垂直にしてミッションオイル量を点検します。
3. オイル量が規定量以下のときは、オイル点検窓で確認しながら、オイル注入口から補給します。



1. ミッションオイル注入口
2. 点検窓
3. 規定範囲

推奨オイル：
ヤマハギヤオイル

JWA11860



- 走行後やエンジン暖機運転後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

ミッションオイル量：

交換時：
0.75 L
O/H時：
0.80 L

JAU30690

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。
エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU30700

低速、加速の状態の点検

暖機運転後に、アイドルリングがスムーズに続くかを点検します。
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストップ（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

冷却水

JAU20070

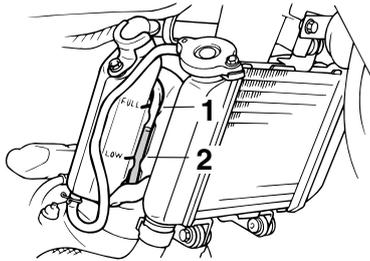
冷却水量の点検

JAU30721

要 点

- 冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。
- 残量の確認は、平坦な場所で車を垂直にして行ってください。

リカバリータンク内の冷却水量が、フルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。



1. フルレベル
2. ロアレベル

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

冷却水のつくりかた

JAU30800

ヤマハ純正ロングライフクーラントと水道水を1対1で混ぜ合わせます。



JWA11880

警告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき 水で充分に洗い流してから、医師の治療を受けて下さい。
- 皮膚や衣類についたとき すみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだとき すぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12110

注意

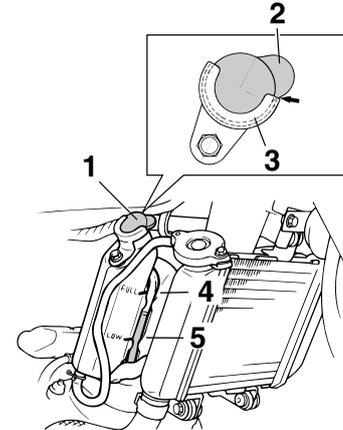
補充する水は水道水を使用し、井戸水や塩分

の含まれた天然水は使用しないでください。

JAU30820

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、ロアレベルより水面が下がっているときは、冷却水をフルレベルとロアレベルの間まで補充します。



1. リカバリータンクキャップ
2. ツバ
3. ブラケット
4. フルレベル
5. ロアレベル

JCA12270

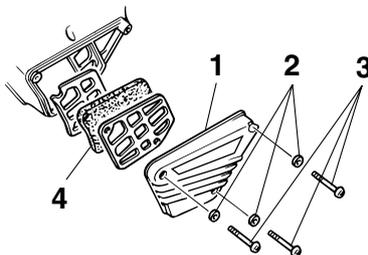
JAU38770

▲注意

- フルレベル以上は入れないでください。
- リカバリータンクキャップは、ツバをブラケット右端に接するように留めてください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

エアクリーナーエレメント エアクリーナーエレメントの清掃のしかた

1. カバー A を外します。(6-2 ページ参照)
2. スクリューとワッシャーを外し、エアクリーナーケースカバーを外します。



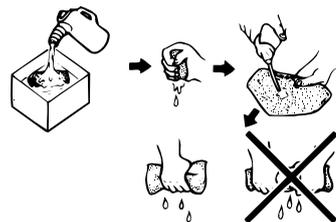
1. エアクリーナーケースカバー
 2. ワッシャー
 3. スクリュー
 4. エアクリーナーエレメント
3. エアクリーナーエレメントを取り外し、きれいな灯油で洗浄し、軽くしぼります。

JWA12250

▲警告

ガソリンや引火性の高い洗浄剤は引火のおそれがありますので、使用しないでください。

4. エアクリーナーエレメントに損傷がないか点検します。損傷している場合は交換します。
5. ME-R フィルターオイルをエアクリーナーエレメントの表面全体に塗布してから、布切れなどで包み、しぼります。



6. エアクリーナーエレメントを、エアクリーナーケースに取り付けます。

JCA11940

▲注意

- 破れなどのあるものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントに水や油などをつけないでください。水や油などが付着して汚れているものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響します。

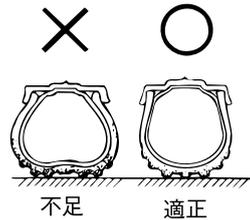
響を与えます。確実に取り付けてください。

- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、清掃を行ってください。

7. エアクリーナーケースカバーとワッシャーを取り付け、スクリューを締め付けます。

8. カバーを取り付けます。

タイヤ 空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。

タイヤ空気圧：

前輪：

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

後輪

200 kPa (2.00 kgf/cm²)

要 点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタ

JAU30941

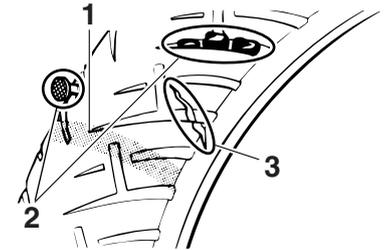
イヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

JAU28581

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないか、また、釘、石、その他の異物が刺さっていないかを点検します。



1. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
2. 異物（釘、石など）
3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したとき

点検整備

は、必ず点検してください。

JAU28700

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28741

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケータで点検します。ウェアインジケータがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケータはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に原付のタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが 1.6 mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11911

警告

- 異なった種類のタイヤや指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響がありますので使用しないでください。
- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正

な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。

- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：

前輪：
70/100-17 40P

後輪：
80/90-17 44P

指定タイヤ：

前輪：
IRC/NF37

後輪：
IRC/NR41

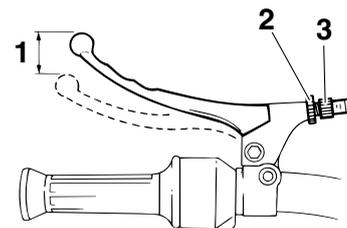
JAU28940

クラッチ

クラッチレバーの遊び

クラッチレバーを手で抵抗を感じるまで引き、レバー先端部の遊びの量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

クラッチレバーの遊び
10.0-15.0 mm



1. 遊び
2. ロックナット
3. アジャスター

点検の結果調整が必要な場合は、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

JWA11840

警告

調整後、エンジンをかけてギヤチェンジがスムーズにできるか、エンストなどしないかを

確認してください。なお、車の飛び出しに注意してください。

JCA12090

⚠ 注意

- 調整後は、ロックナットを確実に締め付けます。
- 1か月に一度はクラッチケーブルの取り付け部に注油をしてください。ケーブルの寿命が伸びます。

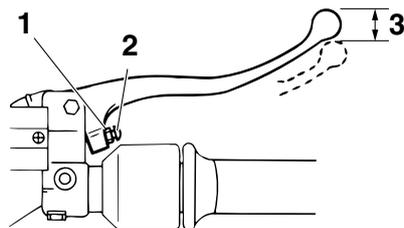
ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

JAU31172

ブレーキの遊びの点検

<前輪ブレーキ>

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが 2.0-5.0 mm の範囲にあるかを点検します。



1. ロックナット
2. アジャスター
3. 遊び

JWA11750

⚠ 警告

ブレーキレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

点検の結果調整が必要な場合は、ロックナットをゆるめてアジャスターで調整します。

JCA12070

⚠ 注意

調整後、ロックナットを確実に締め付けます。

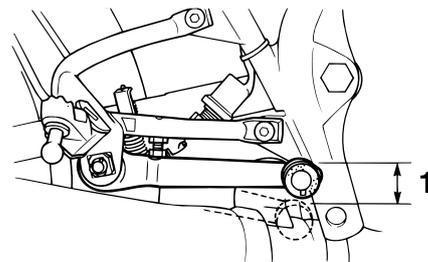
JWA11850

⚠ 警告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

<後輪ブレーキ>

ブレーキペダルを手で押し、抵抗を感じるまでの遊びが 20.0-30.0 mm の範囲にあるかを点検します。

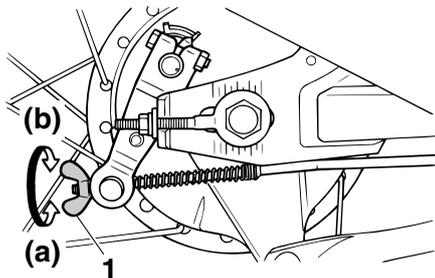


1. 遊び

点検整備

点検の結果調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

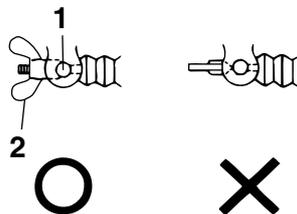
1. アジャスターを時計回り (a) に回すと、遊びが少なくなります。
2. アジャスターを反時計回り (b) に回すと、遊びが多くなります。



1. アジャスター

要 点

アジャスターは、必ずピンとかみ合わせてください。



1. ピン
2. アジャスター

JWA11850

警告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりが無いかを確認してください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11760

警告

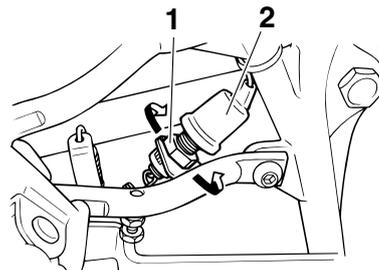
走行して点検するときには、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

JAU22270

ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。

リヤブレーキランプスイッチの調整は、スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して行います。



1. アジャスター
2. リヤブレーキランプスイッチ

JCA12080

注意

リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

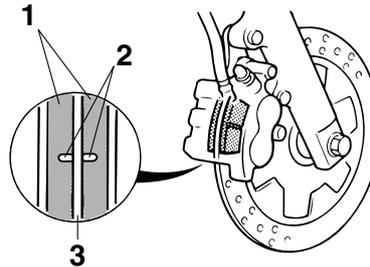
JAU29670

JAU29860

ブレーキパッドの点検

<前輪ブレーキ>

ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。



1. ブレーキパッド
2. インジケーター溝
3. ブレーキディスク

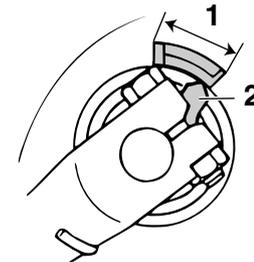
インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

ブレーキシューの摩耗点検

<後輪ブレーキ>

ブレーキシューの摩耗の状態を点検します。ブレーキペダルをいっぱい踏み込んだとき、インジケーターがシュープレートの使用範囲から外れるとブレーキシューの使用限度です。

ヤマハ販売店で交換・整備を受けてください。



1. 使用範囲
2. インジケーター

JWA11830

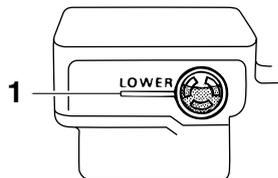


ブレーキシューの交換時には、ブレーキシューのテンションスプリングも同時に交換してください。

JAU29980

JAU31141

ブレーキ液量の点検



1. ロアレベル

マスターシリンダーキャップ上面を水平にして、ブレーキリザーバタンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

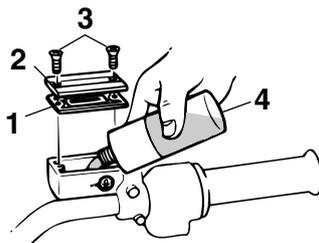
JWA12150

警告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキシステムの液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキ液の補給

1. マスターシリンダーのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。



1. ダイアフラム
 2. キャップ
 3. スクリュー
 4. ブレーキ液
4. ダイアフラムのかみ込みみに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。

指定ブレーキ液：

ヤマハ純正ブレーキフルード
BF-4 (DOT-4)

JWA12070

警告

- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキシステムの部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバタンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために1年毎の交換をおすすめします。

JCA12330

注意

- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム

類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

JAU22760

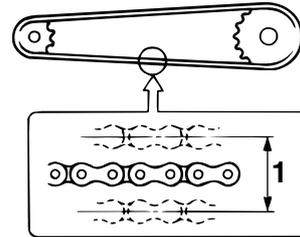
ドライブチェーン

JAU22771

ドライブチェーンの点検

ドライブチェーンたわみ量：
25.0-35.0 mm

JAU30510



1. ドライブチェーンのたわみ量

サイドスタンドを立て、前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

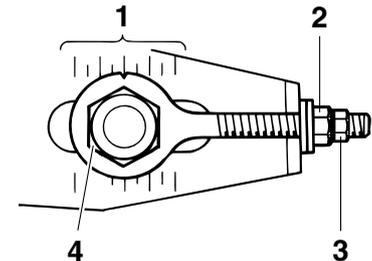
要 点

ドライブチェーンのたわみ量を点検するときは、シートに荷重を掛けずに、リヤクションが伸びきった状態で行います。

また、リヤホイールを浮かし、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

チェーンの張り調整

1. セルフロックングナットをゆるめます。
2. ロックナットをゆるめてアジャスターで左右均等に締め込みます。(刻み目盛りを左右同位置にします。)



1. 刻み目盛り
2. アジャスター
3. ロックナット
4. セルフロックングナット

3. 張り具合が規定値になるように調整します。
4. 調整後、ロックナットとセルフロックングナットを確実に締め付けます。



ドライブチェーンの調整後は、必ずブレーキ調整を行ってください。

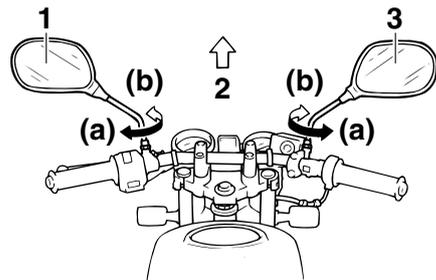
ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながらチェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを、柔らかいブラシなどで落とします。その後、MEスーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにME-180 チェーンオイルを給油します。

バックミラー

バックミラーの取り付けおよび取り外しかた

- 右バックミラーは左ネジです。
反時計回り (a) に回すと締まります。
時計回り (b) に回すとゆるみます。
- 左バックミラーは右ネジです。
時計回り (a) に回すと締まります。
反時計回り (b) に回すとゆるみます。



1. 左バックミラー
2. 進行方向
3. 右バックミラー

JAU28620

車体各部の給油脂状態の点検

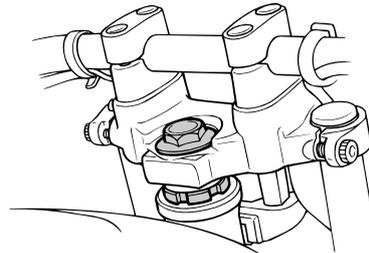
車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28650

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

JAU28761

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。

バッテリー液の補充、点検は不要です。

バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11810



バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣

点検整備

服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12141

注意

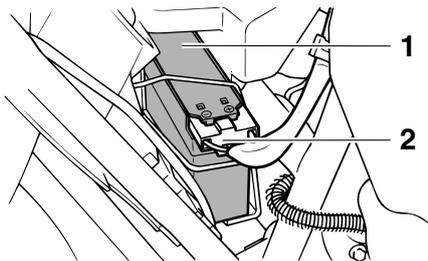
- このバッテリーは密閉式の12Vです。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、3か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU29050

バッテリーの取り外し

1. カバーB を取り外します。(カバーの取り外しは6-2 ページ参照)

2. ボルトをゆるめてオイルタンクを手前に引きます。
3. バッテリーバンドを外します。
4. コネクターを抜き、バッテリーを取り外します。



1. バッテリー
2. コネクター

要点

バッテリーからコネクターを抜くときは、コネクターの中央を押さえてください。

バッテリーの取り付け

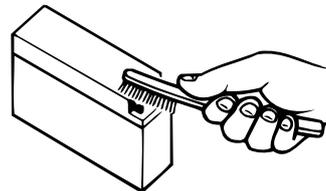
取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JAU29410

ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃しま

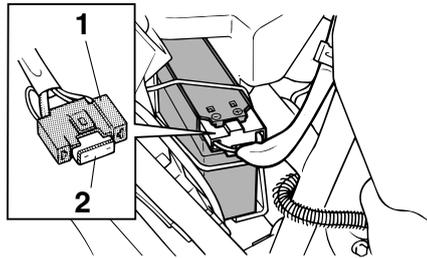
す。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



JAU23453

ヒューズの交換

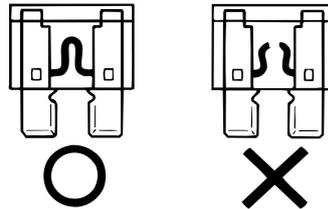
ヒューズはバッテリーリード線のコネクターにセットされています。



1. コネクター
2. ヒューズ

ヒューズが切れたときは、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



規定ヒューズ：
7.5 A

JCA12860

▲注意

- 交換するヒューズは、規格外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けしないでください。漏電や短絡

(ショート)の原因になります。

3. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JAU29470

灯火装置および方向指示灯の点検

1. エンジンを始動します。
2. ヘッドライト、テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-17ページを参照）し、異常がないときは電球を交換（「製品仕様」のページを参照）してください。

JCA12060

注意

電球は、正規の規格と同じものと交換してください。これ以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29570

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

JAU27780

JAU27960

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

洗車

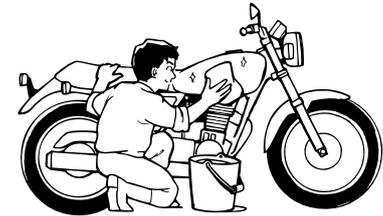
雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

● 中性洗剤を使用して水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。からぶきはキズの原因になりますので、しないでください。また、スチーム洗車や水道ホースなどで、車に直接圧力かける洗車もしないでください。

- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。

ワックス：

ユニコンカークリーム



JWA12120

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車時、ブレーキドラムに直接水をかけないでください。ドラム内に水が入ると、ブレーキの制動力が低下し、一時的にブレーキがきかなくなることがあります。特に寒冷地では充分注意してください。
- 洗車後、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、ききが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。
- ブレーキディスクやパッドに、ワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキがきかなくなり、事故の原因

お車の手入れ

因となります。

JCA12210

▲注意

- エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部分を傷つけますので使用しないでください。

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

JAU28062

JCA12432

▲注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。
- キャブレター内のガソリンをすべて抜き取ってください。内部のつまりなどを防ぎます。
- バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3か月ごとに補充電を行ってください。
- 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。

※補充電およびガソリンの抜き取りは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU28080

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28151

オートループスーパーオイル

ヤマハの2ストロークエンジンにはヤマハオートループスーパーオイルをご使用ください。

オートループスーパーオイルはヤマハの2ストロークエンジンのために開発されたエンジンオイルです。



JAU28170

ME-7

水冷専用：過酷な状況でも安定した冷却効果と優れた防錆、防食力のある不凍液です。



JAU28190

ME-R フィルターオイル

ヤマハコンペティションモデル専用開発したフィルターオイルです。火山灰、サンド、赤土、泥ねい、泥水など、全日本MXラウンド全ての状況を考慮して開発・テストしてありますので、車は常に優れた性能を発揮できます。



ブレーキフルード BF-4

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。



JAU28200

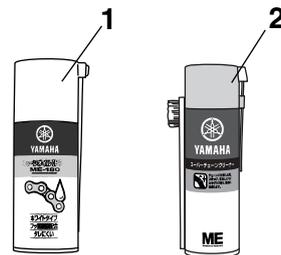
JAU28220

ME-180 チェーンオイル

フッ素樹脂配合により耐摩耗性、耐熱性に優れたチェーンオイルです。“ドライ”と“ウェットムースタイプ”があります。

ME スーパーチェーンクリーナー

チェーンに付着したグリースやオイルなどの油汚れを手軽に素早くクリーニングします。



1. ME-180 チェーンオイル
2. ME スーパーチェーンクリーナー

JAU28270

ギヤオイル

極圧性、酸化安定性に優れ、油膜強度が高いギヤオイルです。アワ立ちもきわめて少ないため、ベアリングの腐食や摩耗を防ぎます。



お車の手入れ

JAU28360

ユニコンカークリーム (ワックス)

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。

ME-180 (防錆潤滑剤)

防錆、潤滑、防湿、浸透力に優れた金属保護液です。



7

1. ユニコンカークリーム
2. ME-180 (防錆潤滑剤)

JAU2633E

寸法：

全長：
1805 mm
全幅：
615 mm
全高：
970 mm
シート高：
745 mm
軸間距離：
1215 mm
最低地上高：
135 mm

重量：

車両重量：
90 kg
分布荷重（前）：
43 kg
分布荷重（後）：
47 kg
乗車定員：
1 名

性能：

定地燃費（国土交通省届出値）：
62.0 km/L/30 km/h

最小回転半径：

2400 mm

最高出力：

5.3 kW@10000 r/min
(7.2 PS@10000 r/min)

最大トルク：

5.9 Nm@8000 r/min
(0.60 kgf-m@8000 r/min)

エンジン：

原動機種類：

2ストローク水冷

気筒数・配列：

単気筒

総排気量：

49.0 cm³

内径 x 行程：

40.0 x 39.7 mm

圧縮比：

7.50 : 1

エアフィルターエレメント：

湿式エレメント

クラッチ形式：

湿式多板

ミッション・チェンジ方式：

常時かみ合式 6 速

始動方式：

セル式

車体：

フレーム形式：

セミダブルクレードル

キャスト：

27.00°

トール：

90.0 mm

ステアリングシステム：

ハンドル切れ角（左）：

35.0°

ハンドル切れ角（右）：

35.0°

燃料：

フューエルタンク容量：

10.0 L

予備容量：

約 1.7 L

フロントブレーキ：

ブレーキ形式：

油圧式シングルディスクブレーキ

リアブレーキ：

ブレーキ形式：

機械式ドラムブレーキ

製品仕様

懸架方式:

- 種類 (前):
テレスコピック
- 種類 (後):
スイングアーム (モノクロス)

緩衝方式:

- ショックアブソーバータイプ (前):
コイルスプリング / オイルダンパ
- ショックアブソーバータイプ (後):
コイルガススプリング / オイルダンパ

フロントタイヤ:

- 種類:
チューブ有り
- サイズ:
70/100-17 40P
- メーカー / 銘柄:
IRC/NF37

リアタイヤ:

- 種類:
チューブ有り
- サイズ:
80/90-17 44P
- メーカー / 銘柄:
IRC/NR41

トランスミッション:

- 1次減速比:
68/19 (3.578)
- 1速:
39/12 (3.250)
- 2速:
34/16 (2.125)
- 3速:
31/20 (1.550)
- 4速:
27/22 (1.227)
- 5速:
26/25 (1.040)
- 6速:
24/26 (0.923)
- 2次減速比:
49/12 (4.083)

エレクトリカル:

- 点火方式:
CDI

ヘッドライト:

- ヘッドライト球:
キセノンバルブ

バルブワット数 x 個数:

- ヘッドライト:
12 V, 30 W/30.0 W x 1

テール / ブレーキランプ:

- 12 V, 5.0 W/18.0 W x 1
- 方向指示灯 (前):
12 V, 10.0 W x 2
- 方向指示灯 (後):
12 V, 10.0 W x 2
- メーター灯:
12 V, 1.7 W x 2

パイロットランプワット数 / 個数:

- ニュートラルランプ:
12 V, 3.4 W x 1
- 方向指示器表示灯:
12 V, 3.4 W x 1
- オイル残量警告灯:
12 V, 3.4 W x 1
- 速度警告灯:
LED
- 冷却水温警告灯:
12 V, 3.4 W x 1

エンジンオイル容量:

- オイルタンク容量:
1.2 L

トランスミッションオイル:

- 定期交換時:
0.75 L

エンジン分解時： 0.80 L	パッド厚さ（外側）： 5.3 mm	点火タイミング： 点火時期（B. T. D. C.）： 14.0° /2000 r/min
クーリングシステム： リザーブタンク容量 （FULL レベル）： 0.25 L 冷却水総容量： 0.83 L	使用限度： 1.0 mm 指定ブレーキフルード： DOT 4	スパークプラグ： メーカー/型式： NGK/BR8ES, BR9ES プラグギャップ： 0.7-0.8 mm
ドライブチェーン： たわみ量： 25.0-35.0 mm	リヤドラムブレーキ： ライニング厚さ： 4.0 mm 使用限度： 2.0 mm	ヒューズ容量： メイン： 7.5 A
ブレーキレバーとブレーキペダル： フロントブレーキレバー遊び： 2.0-5.0 mm ブレーキペダル遊び： 20.0-30.0 mm スロットルケーブル遊び： 4.0-6.0 mm クラッチレバー先端部遊び： 10.0-15.0 mm	ホイールトラベル： ホイールトラベル（前）： 120.0 mm ホイールトラベル（後）： 100.0 mm	
フロントディスクブレーキ： パッド厚さ（内側）： 5.3 mm 使用限度： 1.0 mm	タイヤ空気圧（冷間時）： 前輪（1名乗車）： 200 kPa (2.00 kgf/cm ²) 後輪（1名乗車）： 200 kPa (2.00 kgf/cm ²)	
	バッテリー： バッテリー型式： GT4B-5 バッテリー容量： 12 V, 2.5 Ah	

JAU36640

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

(社) 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用を

メーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

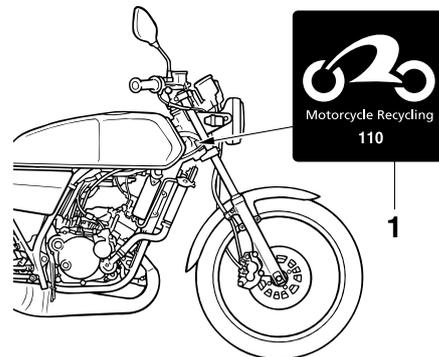
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

(財) 自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9時30分～17時00分(土・日・祝日・年末年始等を除く)

JAU28370

JAU28410

サービスマニュアル(別売)の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

RZ50 サービスマニュアル 部品番号：

基本版：

QQS-CLT-000-5FC

追補版：

QQS-CLT-010-5FC

※追補版は、マイナーチェンジなどで機構に変更があったときに、その変更部分のみを説明したサービスマニュアルです。基本版とあわせてご使用ください。

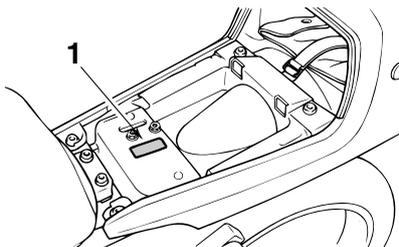
車両情報

モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、シート下のフレームに貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えてください。

車名は

RZ50

モデルラベル

製品仕様を示しています。



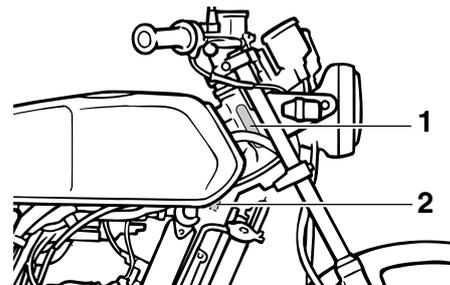
カラーリングを示しています。



車台番号、原動機番号、型式認定番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

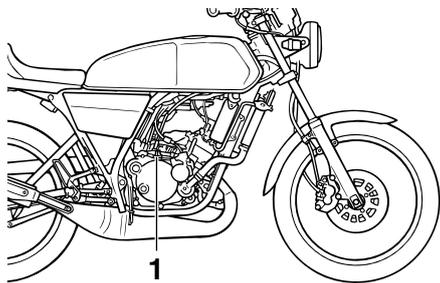
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



1. 車台番号

2. 型式認定番号

ユーザー情報



1. 原動機番号

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの巻末をご覧ください。

QQS-CLT-102-5FC

再生紙を使用しています



PRINTED IN JAPAN
2005.8-0.1 × 1 
(J)